



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2023年10-12月号

Vol.63

支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈り、ご支援を心より感謝いたします。

1年が過ぎるのが年々早くなるというのはある年齢以降は誰しも感じるのですが、私にとっても同じです。それでも年の瀬に振り返ったとき、**2023年はなんて多くのことが起きたんだろう**という感慨を覚えるから不思議です。11月26日が義父の誕生日、11月28日は私の誕生日ですから、毎年11月には妻の実家で二人の誕生会をしてくれます。今年はそれが私ひとりの誕生日会だったことで、2月に他界した義父の不在を改めて感じ、「何か大切なものが足りない」という心の空白を覚えました。

8月には季節性鬱の予防のため北海道に滞在し、数年ぶりに顔を合わせて話す旧知の友人や恩人たちとお会いする恵みに与りました。9月には岐阜の日本伝道会議に参加し、FVIの分科会『もしイエス様が市長だったら』に140名を超える申し込みがあり、参加者から好評をいただきました。私が翻訳した同タイトルの書籍も発売2年で約1000部を売り上げ、私のことを直接知らない人や教会からも「大きな影響を受けた。今教会や牧師会で読書会を開いている」などの声を聞くようになりました。後述するように、10月、11月には人生を変えるような出来事も起きました。

誕生日という節目に様々な摂理的な出来事や出会いがあったことで、神様は私の人生という物語をダイナミックに導いてくださっていて、今、この時代に使命を与えてくださっているということがかつてないほど明確に感じています。命を使うと書いて「使命」と読みますが、これからも神の呼び声に応答し、使命(calling)に生きていきたいと願います。支援者の皆様のお祈りとお支えがあつての歩みでもありますから、今後もお祈りに覚えて頂けましたら幸いです。



11月某日 妻の実家での私の誕生日会

内省の期間と「新しい召し」

内容の性質上、様々な方が読む可能性があるこのレターに書くのは相応しくないと判断し、詳細をお伝えできなくて大変恐縮なのですが、10月に私の人生を左右するような大きな出来事がありました（念のためお断りしておきますと、私や家族の体調不良や家庭の不和、身内の不幸などではありませんのでご安心ください）。

とはいえ人生における大きな出来事というのは良かれ悪しかれ大きなエネルギーを消耗します。一時的に鬱状態にも似た症状が出ましたが、妻は「今のあなたと同じ状況に置かれたら誰でもそうなる。顔に表情があるから鬱ではないと思うよ」と言ってくれました。10月から11月にかけて、この出来事の影響で2か月近く普段の活動をする力がなくなった期間はそれでも、神の前にへりくだり、悔い改め、静まるとともに、自分を見つめ直し、人生を再考する良い機会ともなりました。その期間、妻ともたくさん話しをしましたし、霊的指導者であるFVIの神田師、柳沢氏とも相談しました。加えてFVIの役員先生、所属教会の友人や全国にいる親しい友人など、心配してくれる様々な方々と話すなかで「新しい召し」が明確に立ち現れてくるのを感じました。同じタイミングで不思議なかたちで与えられたいくつかの出会いや出来事もまた、神からの明確な語りかけと「しるし」であると感じました。大変な時期ではありましたが、同時に大きな神様からの呼びかけと恵みがかつてないほど強く感じています。

諸般の事情から、支援者の皆様にお知らせするのはもう少し時間がかかりますが、活動のために祈ってくださっている支援者の皆様は家族同然と思っていますから、時が来たら必ずお知らせいたします。

「新しい召し」はこれまで以上に厳しい歩みになるかもしれないという予感もあります。しかし同時に、大学で獣医学を学んだこと、鬱病を患ったことなどを含め、これまでの私の人生のすべての出来事が、「ああ、実はこの召しに向けて用意されてきたんだ」という感動と希望も同じぐらい確かに覚えています。今後も支援者の皆様とともに日本の教会の未来、キリスト教の未来のため、「声なき者とされている方々」のために、命をかけてこの人生を神に用いていただきたいという決意は変わらず、さらに強く新たにされています。志を共有してくださる皆様と歩める恵みを心から神に感謝するとともに、この期間、個人的な励まし、助言をくださった方にはこの場を借りて感謝申し上げます。



北海道から贈っていただいたじゃがいもでコロッケをつりました

メッセージ要約 『福音とは何か』

9月24日に愛知県のICBCでメッセージ奉仕をさせていただきました。この15年で初めて主任牧師の遠藤師から事前に電話があり、「今回はよろしければ『福音の基礎』について話してほしい」というリクエストがありました。最近新しく教会に来た方々も今まで何十年も教会に来た方々も同様に、福音の基礎についてももう一度しっかりと学ぶ必要を感じている、という遠藤牧師の要請にお応えして、今回改めて「福音とは何か」について咀嚼し、メッセージを語る経験は、私自身にとっても信仰が刷新され明確にされるような経験でした。紙面の関係できわめて簡潔な要約になりますが、支援者の皆様にもシェア

させていただきたいと思います。

今年亡くなった米国リディーマー教会の牧師ティモシー・ケラー師は著書『センターチャーチ』（邦訳はいのちのことば社から 2022 年に刊行）で、「福音はそれほど単純ではない。私たちがそう思うのは、聖書のテーマによる福音の表現が限りなく深く豊かだからである。（中略）パウロ自身、福音が何かを様々な方法で——順番、議論、強調のレベルなどの違いによって——、様々な文化に提示した。私たちもそうする必要はある。福音は単一のメッセージであるが、単純なメッセージではない（68 頁）」と書いています。そして「誰にでも通じる単一の福音の提示方法を作り出そうとする衝動」には抵抗しなければならないと、過度な単純化や定式化への警戒を示しています。

では、「福音とは何か」について私たちは分かりやすく言語化することを諦めなければならないかというそんなことはありません。たとえば様々な語り方のひとつとして第一コリント 15 章にパウロは「福音とは何か」を言語化していますが、この内容は最古のキリスト教の信条である「使徒信条」の内容と呼応します。それらを敢えて項目に分けると福音の本質として次の 5 つが見えてきます。私たちは、**1. 「神の世界」に生きている 2. 十字架で死なれたイエス・キリストを信じる 3. キリストのよみがえり（復活）を信じる 4. 共同体の交わりに加わる 5. 死が勝利に飲み込まれる世界を生きている。**

福音と訳されているギリシャ語は「ユーアンゲリオン（良い知らせの意）」ですが、本来この言葉は軍事用語で、「戦争に勝利したことの知らせ」を意味したそうです。終戦後もアメリカとの戦争が続いていると信じ、1974 年 2 月に帰国するまでフィリピンのルバング島でサバイバル生活をしながらたったひとりの「諜報活動」を行っていた小野田寛郎さんという方がいます。29 年の歳月を経て探検家の鈴木紀夫氏が接触したときもアメリカのスパイだと最初は思っていました。忍耐強い説得の果てに「長い間ご苦労様でした。戦争は終わっています」という鈴木氏の言葉によって、小野田さんは戦争が終わったことに得心し日本に帰国しました。小野田さんにとっての「ユーアンゲリオン」はただ単に「戦争が終わった」という情報だけではありません。日独伊の三国同盟の解体、日本国憲法によってもはや日本の主は天皇ではなく「民」になったこと、女性にも参政権が与えられたこと、徴兵制はもうなくなったこと、日本が今は経済的に繁栄していること、今は日米同盟が強固になっていることなど、一連の「物語の変容」こそが小野田さんにとっての「ユーアンゲリオン」でした。

福音を知るとき、私たちは「別の平行宇宙に移住する」ような物語の変容を経験します。悪魔はすでに敗北しており、死はもはや恐れるものではなく、十字架の勝利と神の国の現実を先取りする生き方ができる世界に私たちは生きるようになるのです。意味がなく絶望の物語から、意味と目的にあふれた希望の物語を生きるようになります。映画「マトリックス」で預言者モーフィアスは主人公のネオに青いカプセルと赤いカプセルを選ばせます。青いカプセルを飲めば今後も AI が生み出す心地よい夢の中、ぬるま湯の絶望を生き続け、赤いカプセルを飲めば AI の夢から醒め、AI の支配から人類の尊厳を取り戻すための解放戦線に加わるという厳しい現実を引き受ける代わりに「本物の希望」のために苦しむ人生が待ち受けています。

クリスチャンになるとは赤いカプセルを飲むことに似ているかもしれません。福音を信じたらバラ色の人生が待っているわけではなく、イエス様が言われたように、むしろ多くの苦しみを受けることもセットで約束されています。しかし、その人生にはまやかしの希望とは違う、本物の希望もセットで与えられるのです。私たちは「新しい物語」を生きる者とされました。この物語を皆様と一緒に生き、励まし合い、同じ戦いを戦えることは大きな恵みです。

メッセージの YouTube はこちら
(12 月 11 日公開)



祈りの課題

- ◇俊・純子・かなえ・ななみの体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。
- ◇翻訳した本『もしイエス様が市長だったら』が多くの人に届けられ、読んでいただけるように。
- ◇FVI や「支える会」の会計が満たされ、主のための活動を続けていくことができるように。
- ◇（今は詳細をお伝えできなくて大変恐縮ですが）新しい召しに従って神の前に相応しく用いていただけるように。主が必要な出合いや、この使命を果たす力を与えてくださるように。

2024年1月以降の主な活動予定

月 日	内 容	場所、補足
2024年2月26～27日	FVI 役員会	万座温泉ホテル（群馬県）
随時継続的に	聖書的世界観／包括的宣教の啓発・訓練	国内各地／オンライン

* 上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼はこちらへ）

陣内への Email shun@karashi.net 無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索

ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

- *振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- *振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- *Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。